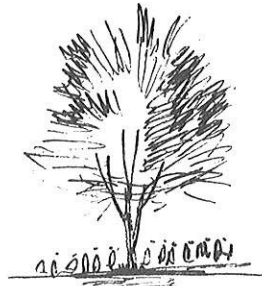


光の子



No.139 2009.12.25

●今年の聖句 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。
だが、死ねば、多くの実を結ぶ。(ヨハネ福音書12章24節)



クリスマスおめでとございます。

皆様のお支えを心より感謝申し上げます。
社会福祉法人 光の子どもの家

「クリスマス会をしました」

挿絵・中島英子

「甲子園」

葛青々と甲子園開幕す

得点の0の並べる暑さかな

全身に灼くる土浴びホームイン

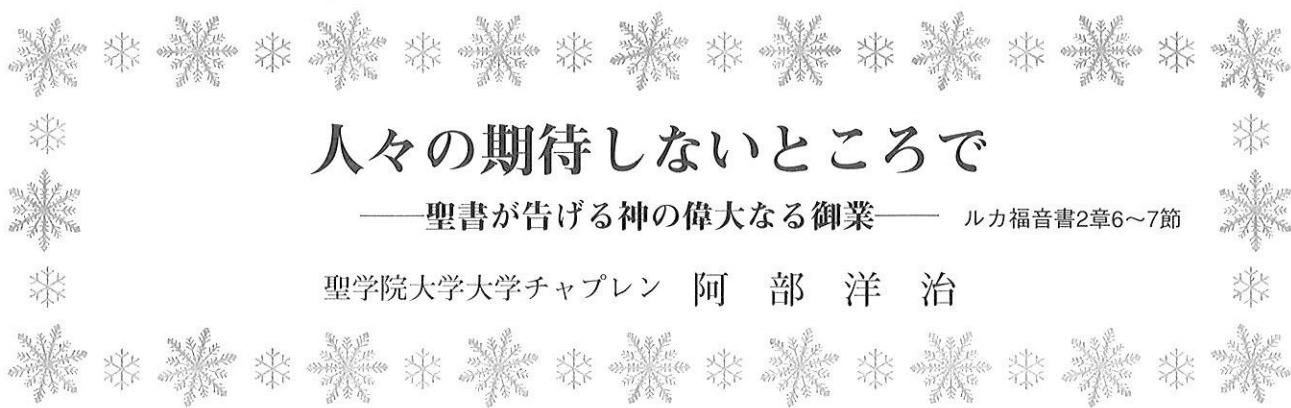
片陰を溢れて歌ふ応援歌

背番号なきが最も日焼せる

マウンドへ伝令走る西日かな

敵を讀へ味方を讀へ涼しかり

俳人 黛 まどか



人々の期待しないところで

——聖書が告げる神の偉大なる御業—— ルカ福音書2章6～7節

聖学院大学大学チャプレン 阿部 洋 治

今年もクリスマスMASの時期を迎えました。不思議なことに、この季節は、おそらく誰もが「クリスマス気分」を味わいたいと思うのではないのでしょうか。私は、北海道の田舎に生まれ育ちました。いわゆる「クリスマス気分」を感じさせてくれるものは何もない田舎でありました。教会もなく、キリスト教的伝統や文化は何もない田舎でありました。しかし、どうしてか、十二月の声を聞き、クリスマスMASの季節になると、何か特別だったのです。いや特別でなければならぬという思いにかられたものでした。今日、商業主義とは言え、あちこちで「クリスマス気分」を盛り上げる演出がされておられます。おそらく、クリスマスでない人々にとっても、クリスマスはいつとも違う時でなければならぬ思いにかられるからではないでしょうか。私はこのことに神の摂理的な導きを感じます。おそらく、こうした気分の背後にあるのは、魂の目覚めだからでありませぬ。人々は意識しないかも知れませぬ。しかし、魂が、普段とは異なり、本当に安心して信頼できる希望と慰めを求める季節なのではないでしょうか。

ところで、こうした時に私の魂を引きつける聖書の一つの箇所は、イエス・キリストは馬小屋でお生まれになったというルカによる福音書の記述です。人々は、ローマ皇帝の命令の下、有無を言わず、人口調査のために自分の生まれ故郷に帰省してそこで登録することをおこなう余儀なくされたのです。このために人々はどれほど辛い犠牲を背負わなければならなかったのでしょうか。ヨセフとマリヤにとってもそうでありました。旅の疲れを癒すことのできる宿を取るほどに経済的余裕はなかったのだと思います。安価な宿は満員でありました。それ故にある宿の馬小屋に滞在させてもらうことになったのです。ルカはこのことを「客間には彼らのいる余地がなかったからである」(一・七)と記しておられます。そして、この馬小屋に滞在している間にマリヤは月が満ちて初子を生むことになったのです。

馬小屋で世界の歴史を変えるような大きな出来事が起こったのです。このことは、私たちに大きな希望と慰めを与えるのではないのでしょうか。神がこの私を、この時代を、どのように救おうとされているのか、このことは私たちには見えません。しかし、神は見えない仕方において救いのわざを開始しておられる。このことに私の魂は感動を覚えるのです。

ルカによれば、この馬小屋を訪れたのは、天の御使から御告げを受けた貧しい羊飼いたちだけではありませんでした。しかし、彼らがそこで見たものは、飼葉桶の藁の上に寝かせてあった幼な子であります。それも氏素性も分からないヨセフとマリヤでありました。しかしながら、彼らは、「見聞きしたこと何れもかも自分たちに語られたとおりであった」と言って、「神をあがめ、またさんびしながら帰って行った」(一・二〇)というのです。

金メダルを取って華やかに注目を浴びるような出来事だけが大事なことでないのです。誰も注目をしてくれない、いや評価もしてくれない小さな隠れた事柄の中で神の御手が働くのです。

ふんだりけつたり三楽章

彫刻家 中島 陸雄

エッセイ

家内の母親が九十九歳で他界した。あと一か月で百歳。まあ天寿を全うしたということであろう。しかも余り苦しまずに。

母は二、三年前から仙台の老人ホームに入って、そこで介護を受けていた。幸にして、頭は余りボケてはいなかった。ベッドでは本を読んだり、テレビで野球をよく見ていた。昔から巨人ファンだったし、高校野球も好きだった。しかし、神から授けられた生命は十月の末までだった。

お通夜、葬儀と続く。私はこの時季の天候を考え、車のタイヤを冬用に入れ替える準備をした。重いタイヤを物置から四本車まで運んだ。この程度の重さならオチャノコサイサイの筈だったのだが、ここでギックリ腰のクセが出てしまった。顔を洗うにも腰が曲げられない。これがフンダリケッターの始まりであった。言わば第一章である。

十一月の七日に納骨が済んでほ

つとした時、お寺の出口の所で、家内は何かの拍子によろけて、左足首の所をひねってしまった。相当に痛いらしく、車までほんの少しの距離を、人につかまりながらやつと歩いた。しかし、これが第二章だとは私には思えなかった。余り大した事はないと思っただけである。

ところが家に帰った翌日は日曜日、病院は休みである。家内の左足はだんだん痛みが増してきて、家の中でも歩けない。そこで、車椅子を借りてきた。もう、自分の足では立てなくなっていた。翌日の月曜日に病院へ行くことにしたが、家内のやっていた仕事は私がやらなければならなくなつた。

まずごはんの炊き方から。米はカップに二杯取り、水は二、三回素早く洗い流して、それからよく研いで電気釜の中に入れる。二の目盛り少し多めの水にひたし、三、四十分そのままにしてからス

イチを入れる。

「カップ二杯って、どのカップを使うの？ 大きいの？ それとも小さいの？」私にはどのカップかわからない。「ほら、その赤い目盛りのついたカップよ。」こんなやり取りから、私の給食当番が始まった。続いて洗濯である。「風呂の水を使うというボタンを押してね。洗剤の量は一番左に書いてあるでしょう？ まちがわないようにね？」「うるさいね。わかったよ。」などというやり取りの後、私はスイッチを入れた。洗濯機は動き出した。ところが、いろいろ言われたので水道の蛇口を開けるのを忘れてしまつて、初めからやり直しである。やれやれ何とまあ面倒なことよ。

月曜日になった。病院で診察してもらおうと「骨にヒビが入っていますね。」と言われ、左足に仮ギプスをはめられた。「左足は使わないでね、そして足を心臓より上にあげておきましょう。」とドクターに教えられた。いよいよ家内は動けない。

姉から電話があった。「英子さんはどう？」私は足の状況やドクターからの注意などを説明し「足はダメだけど口は達者だよ。」と答えておいた。「口だけは達者。」と

言わなかったのは、私の、せめてもの思いやりの表われである。本当は口だけが達者で、ああする、こうすると仲々うるさいのである。「主婦の仕事が細ごまと大変なのがわかったでしょう？ 私が忙しい時にも、あなたは新聞を広げて、優雅にお茶を飲んだりしているんですものね。」ときた。「いや、のんびりしているわけじゃないよ、我々はね、常に国際情勢や国内の重要問題に注意を払っていきなくちゃならないんだよ。」などと苦しませる言ひを逃れしてみた。しかし実際は、新聞の第一面にあるオバマ大統領がどうしたとか、鳩山さんがどう言ったなんて、私には関係がなく、主として短歌や俳句、それに川柳などに関心が強いのだ。「それにね、まだギックリ腰が痛くてね。あ、そうだ、味噌汁の実は何にする？」

私は、もう、すっかり主婦の心になってしまっていたようである。このあたりが、第三章にあたるのだろうか。

そして、私のフンダリケッターの第四章は、まだである。その第四章がどんな展開になるのか、はなはだ心配だ。やはり未完成にしておこう。

以前「光の子」でも「草木塔」のことに触れたことがあるが、新しい読者のためにちよつと説明しよう。江戸時代、山の木を伐採して川のの流れを利用して、城下まで運ぶ「木流し」という仕事が行われていたが、草や木にも魂が宿っているという、一つのアニミズムに基づいて、木流しの犠牲となつた草や木の鎮魂と木流しで働く人々の安全を祈願して建てられた石碑を「草木塔」と呼び、その表には「草木塔」あるいは「草木供養塔」の文字が刻まれている。草や木の命をもいとおしんで塔を建立するという優しい心の持ち主たちのなせる業と言えよう。

地球の裏側の国、パラグアイに「草木塔」が建立される

JICAシニア海外ボランティア 仙道 富士郎

江戸時代はそのほとんどが山形で建立されていたが、最近では、建立者の色々な想いに基づいて、日本国中種々の場所に建立されている。

筆者がJICAシニアボランティアとしてパラグアイに来る時に「草木塔ネットワーク」を設立し、「草木塔の心」を広めていく仕事を中心的な役割を果たしてきた山形大学の土橋先生に「パラグアイで海外はじめての草木塔を建てることも、先生の大事な仕事ではないの？」と言われ、すっかりその気になって、この一年半パラグアイで活動してきた。その結果、今回地球の裏側の国、パラグアイに「草木塔」が三基も建立されるに、たつた。二大日系移住地、ピラポとイグアス、そして私の友人の農場における海外で初めての草木塔建立である。多くの心優しい人々との出会い、自然保護運動の地球規模での盛り上がりによる後押しなどが、短期間にこのようなことができた理由なのだと思う。

ピラポ日系移住地の草木塔は、日本語のものとスペイン語のもの、二基からなっている。日本語の草木塔には、私とその文章を考えた、「幾多の恵みを与えしピラポの自然に感謝し、将来にわたりこれを守りぬかんとする想いの一つの記し」として、ここに草木塔を建立す」という碑文が、「草木塔」とい

う大きな文字の下に記されている。そして、その文章のスペイン語訳がとなりの小ぶりの塔のSOMOKUTOの文字の下に刻まれている。これは、日系一世の工藤ピラポ市長の発案によるもので、「草木塔といつてもパラグアイ人には何の事か分からないだろうから」という、パラグアイ人も大切にしようとする彼の想いがそうさせたのである。

山形出身の石井さんが「草木塔」の文字を刻んだ、イグアス日系移住地の草木塔は重さ三、五トンもあり、威風堂々としている。イグアスでは自然環境保護運動としての植樹が盛んに行われており、そのため苗を育てる育苗センターの入り口に草木塔は設置され、「まさに所を得たり」と言った感じである。草木塔の入魂式で、福井イグアス日本人会会長は、その挨拶のなかで、「いま私たちの前には大きな耕地が広がっています。が、考えてみると、それは切り倒された木々や、引き抜かれた草花の犠牲のうえに成り立っているわけで、いま私たちは、草や木の魂に安らぎを与えなければなりません」と草木塔建立の意義について触れた。仕掛け人としてはなんと

もありがたい言葉である。この原稿が印刷されるころには、もう一基の草木塔が、友人の高岡氏の農場に建立されている筈である。農場の林にその姿を現す岩盤そのものに「草木塔」と記した大理石を埋め込む、全く新しい趣向の塔である。

ここまで走ってきて、いま私は、はたと立ち止まっている。石の文化の特徴は、長く残るということにある。今回パラグアイに建立された草木塔は、もちろん私の生を越えて生き続ける。今頃になって「こんな大それたことをして、本当によかったのだろうか」という想いがつのるようになり、ただがむしやらにことを進めてきただけの自分の行いを反省することしきりなのである。

しかし、イグアス・ピラポいずれの移住地のみならずも異句同様に「これから、どうこの草木塔を守っていくかが問題だ」とおっしゃる。草木塔は仕掛け人の私の想いをはるかに超えて、いま、パラグアイの地がっしりと腰を下ろし始めたのだと思いたい。

(山形新聞より転載)

「共育ちカンガルー日記」

近藤みちる

(4) クリスマス・ツリー

木枯しが吹く頃になると、街のあちこちでクリスマス・ツリーを目にするようになる。商店街では賑やかなクリスマス・キャロルが流れ、色とりどりのオーナメントやイルミネーションが輝き、街全体が華やいだ雰囲気包まれる。私が一年のうちで最もうきうきする大好きな季節である。

いつだったかターシャ・テューダーの絵本で見たクリスマス・ツリーは、天井まで届くくらい大きなツリーだった。暖炉の脇に置かれたツリーに子供たちは梯子をかけ、丸々一ヶ月をかけて飾り付けを楽しんでいる。オーナメントは全部手づくり。古いセーターを解いて小さな靴下を編んだり、天使の形に焼いたクッキーに紐を通したりして吊るすのである。家族が暖炉のそばに集い、クリスマス準備をゆつくり楽しむのだ。

十二月に入ると、我が家の居間にもクリスマス・ツリーがお目見えする。残念ながら我が家には暖炉もな

いし、ツリーは二歳の娘が背伸びをすればつべんまで手が届くくらい可愛らしいサイズ。毎晩夕食後の一時間、ツリーのイルミネーションを点灯するのが十二月の大切な日課となる。

子供の頃、家にはこれよりももっと小さなクリスマス・ツリーがあった。確か何かの景品で当たったものだ。それでも、三つ違いの姉と私はこのツリーを宝物のように大切にしていた。十二月に入るやいなや、母にせがんで押入れの奥からツリーの箱を出してもらおう。毎年のことだが、箱を開けた瞬間に歓声を上げたものだ。金銀のモール、サンタや天使のオーナメント、三色に輝くイルミネーション……一つずつ箱から取り出して、ていねいに飾りつけていく。最後に飾るのは、ツリーのでつべんの大きな星。この聖なる星を飾る大役を、姉はいつも私に譲ってくれた。

二学期の終業式はクリスマスイヴ。姉も私もこの日はばかりは寄り道もせず、まっすぐ家まで走って帰ったものだ。母は夕食に、お誕生日と同

じくらしいのご馳走を奮発してくれた。チキンやフルーツポンチ、ジュースにクリスマスケーキなどが食卓を飾った。夕食が済むと、ケーキに乗っているサンタのキャンドルに火を付け部屋の照明を消す。ゆらゆら揺れるキャンドルの火を囲んで、ひとしきりクリスマス・ソングを歌い、それからケーキを切り分ける。傍らには、クリスマス・ツリーのイルミネーションが笑っているみたいに輝いていた。

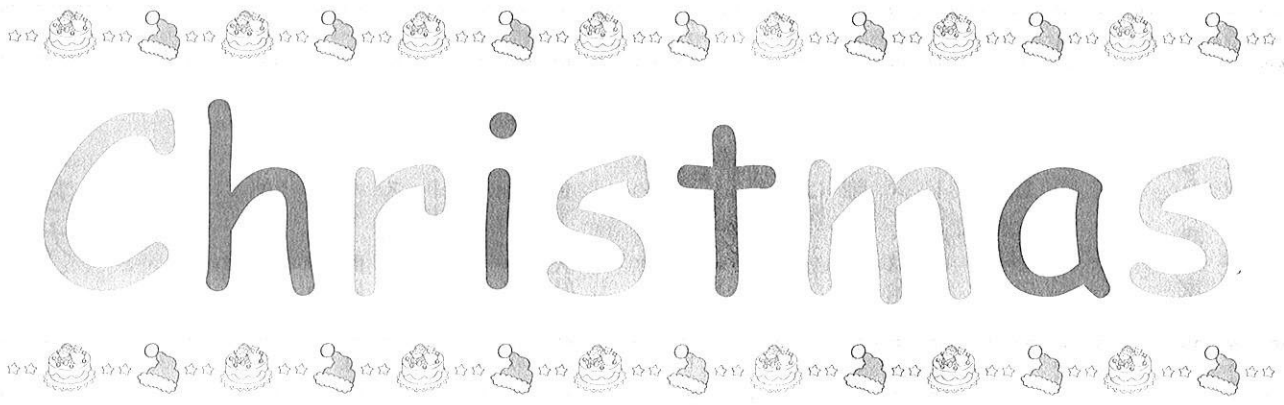
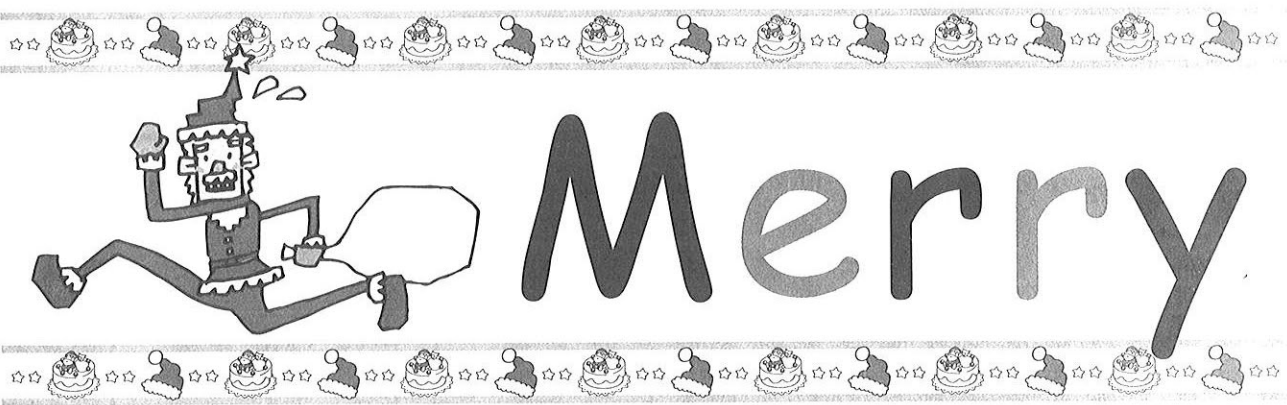
翌朝目が覚めると、それぞれの枕元に綺麗な包装紙にリボンのかかったプレゼントが置かれていた。中身は色鉛筆のセットとかパジャマとか、たいへん実用的なものが多かった。サンタにお願いした流行のおもちゃが出てきたことは一度もなかったが、リボンをほどくときのワクワクした気持ちは何十年経った今でも忘れられない。しばらくプレゼントを眺めた後、私たちは布団から飛び出し、前日のケーキの残りを食べ、翌日には片付けられてしまうクリスマス・ツリーを一日中飽きずに眺めて過ごしたものだ。

私たちにとって冬休みの最初の二日間、まさに「特別な宝物のような日」だったように思う。当時傾きかけた質屋で細々と生活していた我

が家は、経済的に決して豊かではなかったはずだ。しかし家族と過ごした日々の中で、私たちは実にたくさんの「宝物」を残してもらった。大人になり母となった今でも、それらは私の中で息づき、日々の生活の中で見失いがちな「ちよつとした幸せ」の種となってくれている。猛烈な勢いで変化していく時代にあっても、この「幸せの種」は時代を超えて、芽を出し花を咲かせ実を結んでくれるものなのだと思おう。

最近では、コンビニでクリスマスケーキやチキンを予約できる便利な世の中となった。ターシャの絵本のようにすべて手づくりとはいかないが、我が家もクリスマスケーキだけは毎年家で焼こうと決めている。娘が大人になったとき、クリスマス・ツリーを目にするたびにケーキの焼ける甘い香りを思い出してくれたい。きつとそれが「幸せの種」。一粒でも多く残してやりたいと思う。チルチルとミチルが捜し歩いた幸せの青い鳥は、実は家の中にいた。サンタクロースも同じ。どこの家にもきつといるはずだ。

蠟燭のサンタ笑顔のまま溶けて
みちる



アドベント&クリスマス☆
 今年は私が光の子どもの家に来て
 十回目のクリスマスです。私は
 クリスマスも楽しめただけ、その
 前にやるアドベントもとても楽し
 みです。しかも、仙道家は第四ア
 ドベントなのでクリスマスに一番
 近いアドベントです。だから四つ
 のアドベントのうち、一番盛り上
 がるような出し物をしたいです。
 あと、私はアドベントの司会をや
 りたい子がいるので、司会を出来
 るか解りませんが、出来なくても
 今までで一番楽しいアドベント&
 クリスマスにしたいです。
 私は昨年もたのしいクリスマス
 にしたいと思っていました。でも
 今年は皆が楽しめるクリスマスに
 したいです。そして、クリスマス
 会に来てくれた人たちがクリスマ
 スの意味をちゃんと分かってくれ
 たら良いなあと思います。

中一 聡美

クリスマスで嬉しかった事
 クリスマスは毎年楽しいので
 が、中でも一番良かった事、嬉
 しかったことは、降誕劇をやった
 ことです。役の中で動きや歌の
 番多いヨセフ役だったときは難し
 かったですが、鈴木さんや小西さ

んなどにやり方を教えてもらいま
 した。それは僕にとって良い思い
 出です。今年もそのヨセフ役にな
 りました。イエス・キリストの父
 親役を、前よりもよく演じられる
 ように練習を頑張りたいです。

中三 清貴

いクリスマスになってほしいなあ
 と思っています。
 小四 広子

クリスマスにやりたい事
 クリスマスはみんなで楽しくペ
 ージェントをしたいです。それま
 で毎週みんなでやるアドベントも
 楽しめたいです。みんなでクッキー
 を作るのも楽しめたいです。ペー
 ジェントもアドベントもみんなで協
 力して楽しくやりたいです。今年も
 楽しいクリスマスにしたいです。
 小三 早紀

楽しみなクリスマス
 私が、年間の中で一番好きな行
 事はクリスマスです。クリスマス
 ではサンタクロースがプレゼント
 をくれるし、ページェントやアド
 ベントがとても楽しいです。クッ
 キーもおいしいです。クリスマス
 は毎年楽しいです。今年もたのし

小五 要

中三 和也

待ちどおしいクリスマス

私はクリスマスといえば、サン
 タさんとページェントです。サン
 タさんに毎年プレゼントをもら
 います。おかしも入っています。十
 二月二十五日朝起きるときいつも
 ドキドキします。いろんな人と見
 せ合いつこをして楽しいです。今
 年は何をもらえるか楽しみにして
 います。ページェントでは私は聖
 歌隊をはじめとやります。ハンド
 ベルがちゃんとできるか心配です
 でも、練習してがんばりたいと思
 っています。

小六 理奈

クリスマス作戦

僕は毎年サンタクロースの正体
 を暴いてやろうと思、クリスマ
 スイヴの夜はがんばって起きてい
 るのですが結局寝てしまいます。
 なぜ寝てしまうのか。その原因
 は僕の「勉強をすぐ寝て寝て
 しまう習性」にあります。今年
 は頑張って勉強をしないで待って
 ようと思、勉強すると寝て
 しまうから、仕方がなくて勉強し
 ないのです。勉強したくないわけ
 ではありません。

中一 誠一

ラスト・クリスマス

二歳の時に光の子どもの家に来
 てから十数年。今年ここでの最後
 のクリスマスを迎えることになり
 ました。毎年心を打たれるよう
 なこの時期を過ごして参りましたが、
 今年は特別な感じがします。クリ
 スマスの華やかさの中に何か寂し
 さや静けさ感じてしまうのはなぜ
 だろう。ただわくわく楽しいだけ
 だった子どもの頃のクリスマスも
 良かったけど、イエス様がお生ま
 れになったときのことを想像して
 しんみりと過ごす事もこれからの
 私には必要な事だと思、キャン
 ドルサーブの夜には、キャン
 ドルサーブをやりやります。ロウソ
 クの明かりの中でお互いにメッセ
 ージを伝え合う、一年の中で一番
 静かな夜です。今年、私が伝えた
 いことはたくさんあるけれど、そ
 れはキャンドルサーブの夜まで
 心の内にしまっておきたいと思
 います。

高三 育実

ページェント

十二月二十五日はページェント
 があります。私は今年天使長なの
 でがんばりたいと思います。前
 みたいにインフルエンザで天使が少

なくなるみたいなのはおこらな
 いでほしいです。クリスマスプレ
 ゼントは何でもいけど小説と、
 おかしと、メモ帳と、シールと、
 洋服などももらいたいです。ペー
 ジェントががんばりたいです。
 小五 丘実

☆メリクリです☆

今年もあつという間に一年が終
 わろうとしています。寒い季節に
 なりましたね。「クリスマス」と
 という言葉を耳にすることになり
 ました。みなさまは、どのようにお
 過ごしでしょうか？私は、この光
 の子どもの家でむかえるクリスマ
 ス今年で十三年目になります。こ
 の年、十三年目のクリスマスも
 つっても楽しめたいです。

みなさまなどのようなクリスマ
 スにしたいでしょうか？今年も
 もう少しなのでみなさま一人一人
 が「今年もいい年だった」と思え
 るように過ごせますように、お祈
 り申し上げます。これからもよろ
 しくお願ひします☆☆☆

中二 麻美

クリスマス

河のほとりて 倉澤家

クリスマスおめでとうございませす。皆さんはクリスマス：という何を想像されるでしょう。十人十色、それぞれ思い描くイメージは様々でしょう。

クリスマスが近づくと、毎年私を悩ませるのはプレゼントです。光の子どもの家では、担当の子どもたちへメッセージを込めたプレゼントを、サンタさんから贈りますが、サンタさんに代わってプレゼントを選ぶのは、担当者の役目。予算もあり、担当者の思いと子どもからのリクエストとの間にギャップがあることもあり、必ずしも子どものリクエストに応えられるわけではありません。

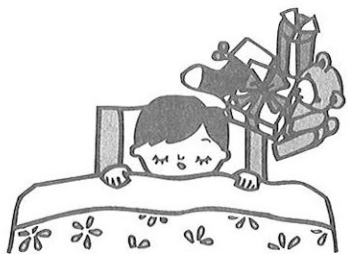
それでも、贈る側は何か子どもにも喜んでもらいたい：と何度も書店や玩具店などに足を運び、両手いっぱい荷物を持ち帰り、子どもたちに見つからない場所に保管し——と奮闘します。プレゼントを探しているその時

は、贈る相手のことだけを、喜ぶ顔を想像します。その子のために心を遣う、その子どもとだけ切な時間になっています。

私も以前は、手元のプレゼントにだけ心が動かされましたが、子どもたちへのプレゼント選びを続けてきたことで、プレゼントそのものよりも、相手が自分のために心や時間を費やしてくれたそのことに感謝できるようになりました。

子どもたちにも、いつか「プレゼント」の本当の意味を理解してほしい、そう願っています。

倉澤 智子



子どもたちの季節 仙道家

○ハロウィン

仙道家では十月三十日に一日早いハロウィンを行いました。子ども達は「変装できてお菓子も貰える特別な日だから楽しみ！早く来ないかな？」と口々に漏らしていました。

毎年恒例になってきた竹花家との合同ハロウィンパーティーは夕礼拝と夕食の合間をぬって行われました。少しの時間でしたが、子ども達も普段着ることのできないドレスや魔女の格好果てはカツラやフェイスペイントなどが出来て大喜び。今年のハロウィンも大成功でした。

○クリスマスが近づいて

一日一日と日照時間は短くなり、起きるのさえ億劫になる早朝。太陽よりも早起きしているのは中学生。朝連のある運動部の子ども達は小学生よりも早く家を出る。変化のない日常に少しずつクリスマスムードが立ち込める。各家にはリースが飾られ、園庭にはケヤキ

の木を利用した大きなクリスマスツリーが立ち、初めのアドベントが開かれた。最後のアドベントが終るたびにソワソワ。もうすぐクリスマス。今日も仙道家ではクリスマスのお話でいっぱいです。

鈴木 康孝



光の中で

佐藤家

朝晩の冷え込みが厳しくなり、冬の訪れを感じる今日この頃です。クリスマスおめでとうございませす。今年度から光の子どもの家の一員となった英恵にとって、ここで

迎える初めてのクリスマスです。毎日アドベントカレンダーをながめて、クリスマスを楽しみにしています。英恵は小学校でも家でもしつかりしていて、一年生であることを時々忘れてしまいます。それでもやはり一年生なので、甘えの要求は強いです。十分受け入れてあげたいと思い、そうしているつもりですが、英恵が満足するほど受け入れてあげられていないのだらうと思います。クリスマスというのは自分自身を振り返る時期です。今年一年自分自身はどうだったかを考えてみると、後悔ばかりが思い浮かびます。しかし、この一年があったからこそ、次につながるのだと信じています。自分自身を振り返りつつ、子どもたちと一緒に楽しいクリスマスを迎えたいと思っています。皆様も良いクリスマスをお迎え下さい。

高野真夕子



原田家日記

クリスマスおめでとうございませす。

クリスマスといえばあたたかなおちついた雰囲気とは程遠い日常を送っている私たち。

幼稚園年長の北斗。彼は光の子どもの家に来て二度目のクリスマスを迎えます。

昨年のクリスマスは、熱を出してしまい、参加できませんでした。聖誕劇も羊飼いの役を一生懸命練習してきたのに、残念ながら熱を出してしまいました。そういえば北斗は、なぜか行事の時に熱を出してしまい参加できない、というのが多いのです。

今年のクリスマスは健康で楽しく迎えられるように祈っています。中学一年生の誠一。サッカー部所属。ある日試合から戻ってきて「つき指したかも、痛いんだけど。」と言いなながらも野球をやつて遊んでいました。でも、全くよくなるので病院へ行くと「骨折です」。きちんと病院へ行きましょう。入浴の際は大変そうでしたが数週間後、完治しました。

池田 祐子

季節のおとずれ 竹花家

冬が来ても暖かい日が続きましたが、十二月に入りやっとならしい気温になってきました。子どもたちはアドベントカレンダーのチヨコレットを毎日楽しみにしながら、クリスマスを待ちわびています。



しかしそうも言っていられないのが受験生、中三の清貴です。目前に迫ってきた高校受験を前に焦りの色が見えて：いたら、こちらもういくらか安心というものなのですが、本人は至って平静、悟りきっているかのような落ち着きでこの時期をいつも通りに過ごしています。点数に余裕があるとは言え

ない状況で、何故こうも落ち着いていられるのだろうかと思議に思う程なのです。そんな様子を見ていて焦るのはこちら側。本人より焦ってしまいます。来年の三月、清貴が志望校合格を誇らしげに報告する姿を祈るような思いで想像しながら、応援していきたいと思ひます。皆様に恵み豊かなクリスマスが訪れますようにお祈り申し上げます。メリークリスマス。

鈴木 洋一



アメリカで 5

菅原 哲男

昨年九月にインデアナ大学院のカルメン准教授から打診があった時も半信半疑で、なぜこの私が？という落ち着かない状態であった。自信満々胸を張って、などという状態ではまるでなかった。だから約四ヶ月の間、何を伝えよう話をするのかなど悶々と、どうしたらいいのか判然としなかったことである。

畏敬している友垣に、プレゼンテーションの内容を話し、適切な助言や確認を願いました。日頃、避けるべき傲慢への思いが気づかないうちに薄れてきたこともあり、そんな機会を得ることが出来ない不幸も重なった。なるようになるまで、という踏ん切りがついたのは最初の大学院の教室に入ってからだった。

さて、何回となく訪ねたアメリカで得られたものはあまりにも多く、書き尽くすことなど不可能である。

数年前、インデアナポリスで案内を頼んで児童福祉に関する施設や機関を訪ねたことがある。

首都インデアナポリスからかなり離れたラッシュユ郡ナイツタウンにある

「兵士と船乗りの家」という児童養護施設を訪ねたのである。

この施設は、アメリカ南北戦争の終わった、一八六五年に開設されて、二〇〇九年に建物の老朽化などによって閉鎖されたものである。

南北戦争終結後に、戦争で死亡した兵士たちの子どもたちを救済するために兵士たちがお金を出し合っつてつくられたものであると聞いた。

聞けば南北戦争以来、アメリカの兵士たちは、戦争孤児たちのために給料の一部を出し合うことがこれまで続けられていたという。日本の兵隊さんには聞かない、まさにボランティアなはたらきなのである。

また、多くの社会福祉施設やその機関の運営は、ほとんどボランティアな寄金が充てられていることを繰り返して訪ねたアメリカで知らされてきた。

たとえば、デンバーのアダプションセンターという養子縁組を調整する機関は、キリスト教会が拠出する基金がその運営費用を賄っているというのである。その機関がソーシャルワーカーやケースワーカーを雇い、そのワー

カーたちに子どもたちをどこの誰に預けるのかを決定する権限を与えているのである。

たとえば、日本では児童相談所に当たるはたらきを民間の機関がほとんど担っているのである。

もっと言えば、フランスの市民革命を勝ち取った市民が、王政に当たっていた者たちをギロチンなどで処刑した。イギリスでは無血革命が実現しているという歴史がある。その歴史の中で、役人や為政者そのものに対して、全く依存しないという伝統が今もなお保たれているのだろう。人の暮らしに関わる部門は出来るだけ民間のボランティアなはたらきによっているのが欧米の基本的な思想なのだろうと考えさせられてきた。

もう一度この国の福祉に関わる歴史を概観すると、一九四五年の敗戦以前までは、制度そのものがなかったという理由で民間の篤志家や宗教者たちが担ってきたものである。戦後憲法によって、すべての国民に付与された生存権は、公の責任によって負われる義務となったのである。権利と義務がキーワードとなって社会福祉：生存の基本が保証されるということになったのである。そして、公がこれ以上賄いきれない社会保障について、いわゆる見直しが行われることになり、公が出

来るとは公で、民間に出来ることは民間にという方向がこの二十年ぐらいの間に定着してきたのである。この民間に出来ることは民間にという文脈の中で、社会保障や教育にまで企業などの競争を原理とする個人や団体などが参入できるようになった。

企業の命題は利益追求だろう。小さなパイの中から企業はまず利益を確保する。利益を差し引いた中で生活保障が行われるのである。もちろんお役所仕事にある膨大な無駄や非効率率は、先頃の「仕分け」作業の中でその一部が明らかに減ってはいる。しかし、暮らしの中にある無駄や非効率率は、人の暮らしについては、ある場合には必要不可欠ともいえるものである。民間性にあるボランティアズムが暮らしには必須だと考えてきた。その基本的な思想や考え方を、自己責任がキーワードであるアメリカから多く学んできた。アメリカのやり方を、そっくりこの国に取り入れることは不可能である。

しかし、人の育ちや暮らしを司る最前線の機関が役人によって取り仕切られてきた戦後の状況は、もうそろそろ総括され、新たな理念と方法を模索していかなければならない喫緊の課題であるうと、深く思った今回のアメリカへの講演旅行だった。

現場から

続・光の子らしく

39

岩崎 まり子

風にあおられ、一枚また一枚と枯葉が地面を彩っていきます。

皆様、いかがお過ごしですか。

先日、理奈ちゃんに

「クリスマスプレゼントをもらえたら、何が欲しい？」

と尋ねられ、危うく「休み」などと答えそうになり慌てました。こういう、気持ち逃げ腰になっているときには、必ず大きなボカをしてしまうのです。

そして、今回のもかなり大きなボカだったので。

「誠君本人からは連絡が入っていないのですが、欠席が続いています。様子はどうですか？」

その知らせはあまりにも唐突で、

にわかに信じ難く、私は混乱しました。元気がないなどという感じはあり、

「具合が悪い？」

「ううん、疲れただけ。」

「昨夜は遅かったの？」

「十時頃には寝た。」

等、気にはかけていたつもりでしたが、まさか登校したふりをしていたとは思ってもみませんでした。何を見ていたのだろうと情けないやら申し訳ないやら…

「学校がつまらない——休んだ理由を私にはそう言っていました。が、担任には親との関わりがストレスで何にもやる気が起こらなくなってしまうと言っていたそう



彼らの優しさが、私には申し訳なくて仕方がありません。本来、氣遣われるべきは彼らであって私ではありませんし、守られるべきは彼らであって私ではないはずなのです。

今回の件以来、登校はしても食卓には顔をささなくなってしまうた誠君。何も知らないはずの理奈が、

「このグミ、誠君にあげてきてい

い？」

等と自分のおやつを一粒残したりして氣遣います。私も、部屋で一人、ギターを弾いている背中に呼びかけます。

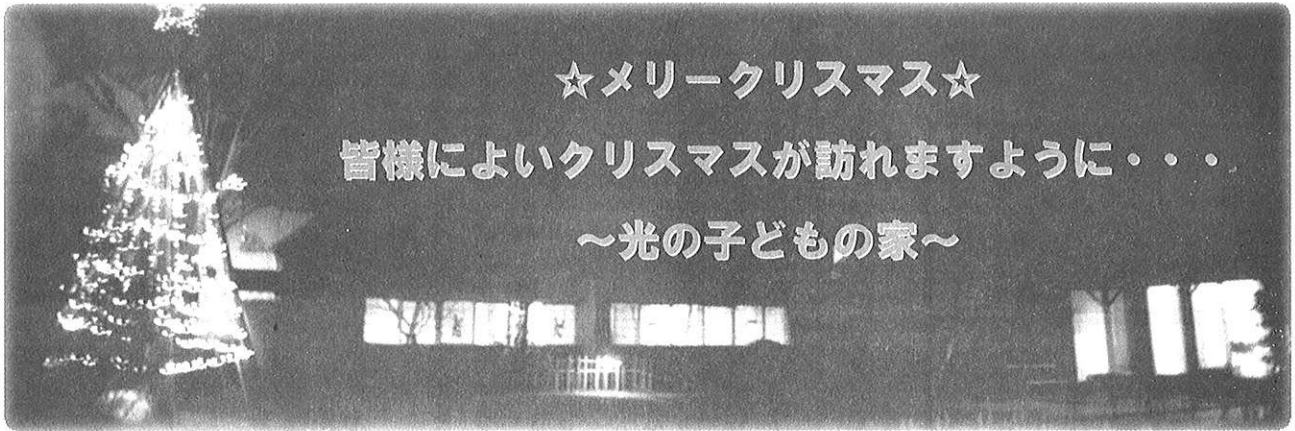
「どんな誠も好きだよ。」

自分は一人ではないという実感が心のエネルギーになるのだろうと思います。そのエネルギーが満ちてくれば、きっと自力で脱出できるはずですよ。

足りないところばかりの私ですが、少しでもそのことのために役立つよう心から願っています。

クリスマスおめでとーございま





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2009年8月1日▶9月末日

2009年8月現在

幼児6名 小学生15名 中学生8名 高校生7名 措置外5名 計41名

- 4日 子どもたちと職員合わせて14名が佐渡が島の池田多嘉子様宅で5日間過ごさせて頂く 毎年の多大なご協力を感謝 楽しい夏の思い出が子どもたちの明日への力となることを信じて
- 10日 子どもたちと職員合わせて7名が長野県の谷本清光様宅で4日間過ごさせて頂く 長年に渡りご支援下さっている谷本様に心より感謝
- 11日 子どもたちと職員合わせて8名が秋田県の小西様別邸で5日間過ごさせて頂く 夏の大自然を海でも山でも満喫させて頂いた 感謝
- 12日 子どもたちと職員合わせて4名が新潟県の田口様宅で4日間過ごさせて頂く 毎年の変わらぬご支援を心より感謝
- 18日 子どもたちと職員合わせて7名が静岡県の増田様別邸で3日間過ごさせて頂く 吊り橋を渡ったり海水浴をしたりと楽しい思い出ができた 長年のご支援を感謝
- 21日 聖学院大学ワーク 学生18名先生1名が2日間に渡りワークを行う
- 29日 写真家の福島力様が子どもたちと職員のポートレートを撮影して下さい 毎年成長していく子どもたちの姿を見事な写真に残して下さい 素敵なご支援に心

より感謝

- 30日 夏休みさよならパーティー 今年も多数のお客様が来て賑やかな夏休み最後の夜 2学期への抱負を抱きつつ
- 9月
 - 1日 各学校2学期始業式
 - 5日 渡部かずき記念礼拝 今年も多数の同級生、また当時の担任の先生が来て下さった 心より感謝
 - 21日 ディズニー・オン・アイス埼玉公演事務局様からのご招待で子どもと職員含め13名でディズニー・オン・アイス観覧 感謝
 - 25日 中学校との連絡会 お忙しい中先生方と一人一人について丁寧に話し合う機会を設けて頂いた 心より感謝
 - 25日 自立援助ホーム推進セミナーへ田中施設長が出席 対象年齢が20歳まで延長されたことでの法改正など現状の確認と今後の自立援助ホームのあり方について話された
 - 30日 鈴木重義様による職員礼拝 ご奉仕感謝
- <8月・9月の物品ご寄贈者>
 山口泰弘 比岸あずみ 松本明子 加部芳子 原安男 北郷真 鈴木春香 高橋一雄 中川キリスト教会 鈴木重義 杉本英夫 他多数の御各位様
- ☆夏の報告を終えて今年も日誌抄に書ききれないほど多くの方々に支えられましたことを心より感謝申し上げます (洋)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

☆気温もやっと下がり冬も本番となりました☆学校帰りの子どもたちの頬がかさかさとして赤らんでいます☆今年も残すところ少なくなってきました☆光の子どもの家ではクリスマス・キリストの御降誕を記念すると共に自らの一年を振り返る大切な時季として過ごします☆折しも二〇〇九年は政権交代が実現され更なる変革の歴史への分岐点となりました☆社会情勢がどんなに変化し法や基盤がいかに変化しようとも変わらない社会福祉の理念「人間尊重」と「社会連帯性」☆「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」というマイノリティの尊重を掲げたジョン・ロールズの哲学☆私たちはたまたまをもう一度振り返り目的を再認識し理念と現状の狭間を確認します☆しかし子どもたちにとっては一年の中でも一番と言つていいほど楽しみなクリスマス☆今年もサンタさんは子どもたちに夢と希望を届けてくれるはず☆サンタさんお待ち焦がれながら眠る子どもたちの顔は一年で一番の寝顔です☆皆様の上にクリスマスのお祝福多きことを祈ります☆クリスマスおめでとうござ

(洋)